

東京新聞

夕刊

中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

放射線

本質的なことを見極める力を身につけるのは難しい。基礎的知識、応用力、専門職的な経験や勘などはもちろん必要だが、最終的には、自分で考える力ではないかと最近感じている。

日本アスペン研究所が主催するユニークな教養講座がある。企業の幹部職員が十五人前後集まり合宿形式で、教師陣が課題として提示する古典の哲学書や文芸書、自然科学書を読む。そして、議論する。自分なりの分析や提案を披露し合って、討論が進む。意見の対立はあるが、人間性

を否定することはない。突飛的な意見があっても、教師陣により全体の議論の中で、きちんと位置づけられていく。国際社会では同様のプロセスが常に求められる。自分なりの分析や提案を分かりやすく他人に伝えなくてはならぬ

教養教育

国ロンドン大学では、学部のうちから人権や生命倫理などのテーマに沿って、討論しながら学ぶ授業が多いと聞く。いわゆる幅広い教養教育である。学生であれ、社会人である、このようなトレーニングは重要だ。

自分で考え、自分なりの軸や視点を持つこと。これが物事の本質や多様性を理解し、協働する感性を養う一歩となる。出る杭は打たれるではなく、出る杭は伸びると評価される社会が国際化の基礎になると思う。



米国ハーバード大学や英金東京事務所長
池上 清子(国連人口基)